

# 北海道の海水を用いた魚類養殖の技術開発と効率化に関する研究 (サクラマス)

実施機関：栽培水産試験場

共同研究機関(協力機関)：熊本大学、滋賀県立大学

(さけます・内水面水産試験場、(株)北海建業)

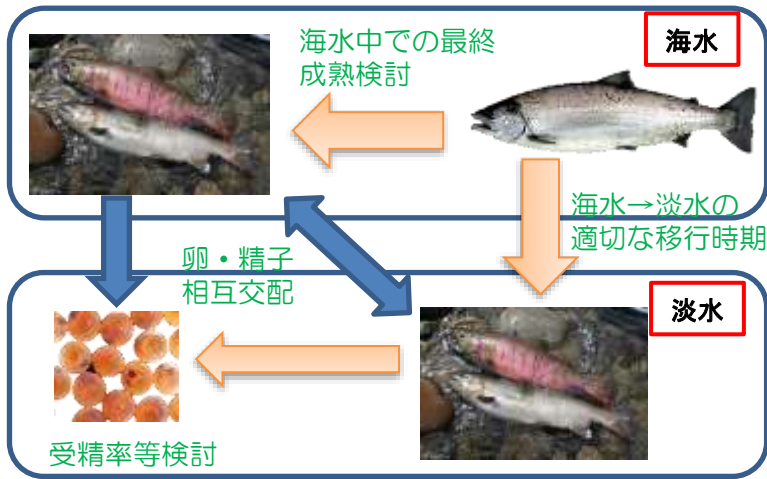
## 研究の背景・目的

- ・北海道の漁業生産激減(2016年87万トン、初めて100万トンを超える)  
(サケ・マス、ホッケ、スケトウダラ等の天然資源の減少)
- ・北海道では海面・内水面養殖が低迷(2013年300トン)←内水面養殖はピーク時(1990年)1,500トンの20%程度。  
(生産コスト高や価格低迷により、サケマスの海中養殖は1990年代にすべて休止)
- ・世界の魚類養殖生産は急成長中(2011年に天然漁獲量を追い越した)←日本も養殖サケマスの輸入大国に。
- ・地域からの要望として、魚類養殖の実施と生産増加に関する要望←日本海の漁業振興対策の一つ
- ・優良系統の次世代作出と養殖の効率化に関する研究が必要(次世代作出と養殖生産増大のための技術開発)。  
(養殖用優良系統の継代や防疫に関する技術開発、養殖の効率化や省力化にかかる監視システム等の技術開発)。

## 研究内容

### ○サクラマス養殖用優良系統の次世代生産手法開発

- 海水→淡水移行基礎技術開発
- 海水中での最終成熟・次世代生産手法開発



### ○効率生産に向けた自動給餌・監視システム開発基礎研究

- 摂餌・遊泳状態等の適切な撮影手法開発
- 取得映像から行動解析手法を開発



## 期待される成果

- ・効率的かつ疾病リスクを低減した次世代生産手法の確立
- ・省力化、効率化のための最先端の養殖管理システムの開発にかかる行動解析基礎技術の確立

## 研究成果の活用

- ・開発した手法とシステムを用いた養殖業の推進と、それに携わる地域経済の活性化
- ・開発した養殖システムその他魚種養殖や、放流用種苗生産現場への応用